令和５年度第１回千歳市卸売市場運営委員会　議事概要（公開用）

日　時：令和５年８月１日（火）10:00～10:20
場　所：千歳市公設地方卸売市場２階　大会議室
出席者：＜委　　員＞ 野澤委員、石川委員、及川委員、中村委員、齊藤委員、増子委員
　　阿部委員
　　欠席：佐藤委員、中橋委員、松浦委員、伊林委員、前野委員
　＜事　務　局＞ 磯部産業振興部長、松石産業振興部次長
　　朱田公設卸売市場長、小野寺管理係長

１　開会

２　挨拶
磯部部長

３　議事事項
（１）会議の公開、会議録の作成について
事務局より、資料１「会議の公開と会議録の作成に関する諸規定（抜粋）」に基づき説明した後、委員長から本日の会議は公開とし、会議録の作成方法は発言内容を要約して記録する旨を提案し、委員会として、これを決定した。
（２）令和４年度の千歳市場の状況について
事務局より、資料２（全体）～資料２―３（決算状況）に基づき、令和４年度の千歳市場の状況について説明を行った。
委員からの意見、質問等は特になし。

４　その他
事務局から次の事項について、報告があった。
・議事録の公表について
・次回会議の開催日程について
・市場関係者による先進地視察（成田市場）について

５　視察
日　時：令和５年８月１日（火）10:50～11:40
場　所：北海道エアポート㈱国際貨物ターミナル SIACT 新千歳空港内

（１）新千歳空港における国際航空貨物施設の運営状況について
北海道エアポート㈱貨物営業部 貨物営業課　齊藤課長様より、資料３「新千歳空港における国際航空貨物の概要について」説明を受けた。
■沿革
新千歳空港における国際航空貨物を専門に取扱う施設「国際貨物ターミナル SIACT」は、新千歳空港の国際化に伴い、北海道経済界からの要請により昭和 61 年（1986 年）７月に設立された「札幌国際エアカーゴターミナル㈱（SIACT）」により設置された。
その後、道内７空港民営化により、令和２年（2020 年）１月に SIACT 社は北海道エアポート㈱の完全子会社となり、更に令和４年(2022 年）４月に同社と合併し、「新千歳空港事業 国際貨物部」として、引き続き国際貨物ターミナルの運営を行っており、長年親しまれた「SIACT」の名称は、国際貨物ターミナル施設の名称の一部として、現在も使用されている。

■主な事業
・国際空港貨物の積み付け、保管、運搬、荷役業務
・上屋、事務所、駐車場などの賃貸及び管理
・青果物くん蒸施設運営　ほか

■施設の特徴

国際貨物ターミナル SIACT は、全国でも珍しい共同上屋形式で運営されており、共同上屋形式では、①フォワーダーが行う手倉業務（貨物の検量・検尺、梱包、ラベリング、爆発物検査など）と、②エアラインが行う上屋業務（航空機に貨物を搭載するためのＵＬＤへのビルドアップや検量など　※実際の業務はエアラインより委託を受けて実施）が同じ上屋施設を使用して行っている。

フォワーダーが業務に必要とする事務室や施設設備（上屋、検量器、冷蔵・冷凍設備、爆発物検査装置、フォークリフトなど)、荷役業務などは同社が有償で提供しており、当該施設に入居しているフォワーダーは、大掛かりな設備投資を行わなくても、事務所の賃貸と数名の職員を用意すれば、一通りの輸出入貨物業務が完結できるメリットを有している。

■国際航空貨物の取扱状況

・令和 2 年 3 月以降、新型コロナウイルス感染症拡大により新千歳空港発着の国際定期旅客便が全面運休し、取扱量が減少した。

・令和 2 年 6 月～令和 3 年 4 月迄、農林水産省「食品等輸出物流ルート確保緊急対策事業（物流ルート確保事業)」を活用し、貨物臨時便による直行便輸送を実現したことから、一定の取扱量を確保できたが、事業終了により取扱量は激減した。

・放射能汚染の処理水問題により、中国向けの輸出検査が厳格化され、現状ではまだ影響は出ていない。

H28　10,515ｔ、H29　16,932ｔ、H30　23,120ｔ、R1　16,123ｔ、R2　12,713ｔ
R3　13,073ｔ、R4　6,299ｔ、R5　4～6 月　1,784ｔ（輸出 1375ｔ、輸入 411ｔ）

・輸出品の大部分はホタテなどの魚介類で、香港が最も多い。

（２）新千歳空港国際貨物ターミナルＳＩＡＣＴの見学

ＳＩＡＣＴの担当者より、全国でも珍しい共同上屋形式で運営している施設の概要や特徴などの説明を受けた。

視察の様子は次のとおり。

・輸出量が増加すると荷物が屋外にはみ出ることから、上屋の増設を行っている。
・冷蔵・冷凍設備についても、輸出量によって不足する。
・上屋内は温度管理できる仕様となっていないため、生鮮食料品の保管に課題がある。
・水産物のみならず、果物類も見受けられた。
・国内の保管方法を改善しても、輸出国の保管によって荷物が駄目になる場合がある。

以上